サッカーにおける利き足とポジションの関係性
～特にウイングポジションについて～

辻田　純（競技スポーツ学科　コーチングコース）
指導教員　松田　保

キーワード　利き足　非利き足　サイドバック

1.　緒言

現在サッカーにおけるシステムは「４－２－３－１」や「４－３－３」がトレンドである。相手よりボールを長く保持し、主導権を取りに行くポゼッションサッカーが主流となり、フィールドを広く使った攻撃が一般的となった。「４－２－３－１」の３人、「４－３－３」のフォワードの３人の特徴として単純にフォワードを３枚並べるというより１人をセンターフォワードとウイングと呼ばれる２人をサイドに配置する傾向が多く見られる。

その中でもウイングと呼ばれるポジションに「利き足とは逆のサイドに選手を配置すること」が多く見られる。サッカーでは一般的に視野を確保することやスピードに乗った状態でのクロスボールの精度などを考え、右サイドには右利きを、左サイドには左利きを配置するのが一般的である。しかし近年トレンドとして非利き足サイドに配置することが多く見られる。そこで本研究は利き足サイドと非利き足サイドを比較し、どちらのサイドに配置すれば良いかを目的とする。

2.　研究方法

本研究の調査対象は筆者が監督を務めたIndependence Leagueでの13試合を映像分析の対象とする。

3.　結果と考察

時間的余裕を作り、サイドバックが攻撃に関わるという点に関しては、1試合平均約4回の差が出た。右利きの選手が左サイドで右足でボールを持った場合、中方向に向くため左利きの選手が左サイドで左足でボールを持った状況より、プレーの選択肢が多く、相手ディフェンダーが飛び込めず、それが結果的に時間的余裕を生み、サイドバックが攻撃に参加できる要因となっている。特に左利きの選手が左サイドでボールを扱う場合は、ボールの置き所(ファーストタッチ)が悪く、なかなかサイドバックが攻撃に関われないシーンやサイドバックとタイミングが合わず、ボールを失うシーンが目立った。

表１　時間的余裕を作り、サイドバックが攻撃に関わる回数のサイド比較結果

	1試合平均	全試合
利き足サイド	26回	2．0回
非利き足サイド	42回	3．2回

4.　まとめ

利き足サイド、非利き足サイド共にメリット、デメリットが存在する。ウイングのポジションにストライカータイプとサイドを突破してクロスパスから得点を狙うアシストタイプかの違いをどう生かすかが重要になってくる。ポジションを目まぐるしく変化させることによって試合の進行や状況に応じて、利き足と逆のサイドから利き足と同じサイドにポジションを変え、更に逆サイドに戻すことで攻撃に絡む自分のポジションを絶えず変化させて、ディフェンスを混乱に陥れ、相手の守備に的を絞らせない攻撃が必要である。

5.　参考文献

西部謙司(2009)　戦術クロニカル～消えた戦術と現代サッカーを読む～　P172～P178